序

昭和五年度大會に報告書を提出するに當つて過去一ヶ年の活動を省みるに尙及ばる事多きを恨みとするものである。

未曾有の財界不況に遭遇して之を切拔けんとする、資本家階級の强襲は狂暴に等しく、賃銀値下、工場閉鎖、馘首と相次いで我等の頭上に投下された。之に對抗する勞働條件維持の闘ひは、日と共に增加し、深刻化し、一度罷業となるや早くも一ヶ月長きは三ヶ月四ヶ月と闘ひ續けなければならない、我等は之に全勢力を傾注して闘ひ通して來た。

濱口緊縮內閣は、金融資本閥擁護の舊平價金解禁を行つて、殊更に失業者を續出せしめ、只徒らに聲を大に失業救濟を叫べども誠意なき彼は、何等具體策を講ずる處なく今や失業者は百萬を突破し底知れぬ生活苦に呻吟しつゝある。我が組合中最も悲慘なるは川口町に於ける失業者にして、川口町を中心に四千の勞働者中約一千名は失業半失業狀態にをかれて居る。本組合は、之が救濟方法に就いて縣當局は勿論安達內務大臣に再三陳情したるも今日尙具體的方法は現れて居ない。止むなく川口支部は、失業者相互救濟組合を組織し、鑄造品の廉賣行商を行つて居るが之とても永續は困難にして、川口町の失業者をして此儘に過すならば餓死するの外なく之が救濟は目下の急務である。

我々は此の勞働階級受難期に際して最も痛感するものは組合の强化である。闘爭力の集中、——會計の正確、基金の積立等其の必須條件に就いては極力努力し、遲々と雖も進步を認めるものである。多年我等が熱望してやまない日本勞働會館の第一期計畫たる現敷地及家屋の購入を見たるは諸君と共に喜とする所である。尙一段と努力し速に完成せん事を祈る。

第二回普選總選擧の結果、勃然として起つた無產政黨合同問題に對しては、社會民衆黨中央委員會の決